
天井は白かった

あそうリネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天井は白かった

【Nコード】

N5116D

【作者名】

あそうリネ

【あらすじ】

白い天井、薬品の香り、そして隣にはゴリラ。

目が覚めた。

そこは見知らぬ場所。

「良かった！目が覚めたのね！」

女の声が聞こえた。

そしてその声のする方向へ目をやると、そこにはゴリラという言葉以外では形容できないような雌が立っていた。

「ゴッゴリラ！！！」

思わずそう叫んでしまった。

すると雌は一瞬逡巡したのち、ハツとしたような顔をした。

「もしかして、私のことを覚えていないの？」

「ゴリラみたいな知り合いなぞおらんぞ」

雌はまた少し思いあぐねるような表情をしたのち、気味の悪いニヤニヤ笑いを顔に浮かべた。

「なっなんなんだよお前気持ち悪いな！」

「気持ち悪いだなんて……！彼女に向かってそんな……！」

雌は顔を前足で覆い、泣き出した。

……つて、彼女？

え、彼女？ゴリラが彼女？嘘だろ、嘘と言ってくれ！誰でも良いから。

「ま、まさかゴリラと付き合うなんて有り得な…」

「あなたは凄く趣味が悪かったのよ。美女からの告白を受け付けずに、私に告白してくるんですもの」

マージーかぁー！

てことは、かなり人生を無駄にしているじゃないか！なんつーことだ。

「というか、美女に告白されるってこたあ、モテモテだっつーことだよな」

「…ええ、それはもう。あなたに会ってあなたを好きと言わない人など居なかったわ」

やはり、モテモテだったのか。そりゃそうだ、ゴリラなんかにとどまるような男じゃねえーぞ！

昔は趣味が悪かったかもしれないが、何を契機にか知らんが、生まれ変わるチャンスを得たんだ。

脱ゴリラ！！略して脱ゴリだ。

これからは美女をはべらせてハッピーな毎日を送ってやるぜ！

これからが本番だぜ！

「あら、目が覚めたのね！」

「おお良かった！」

何の前ぶれもなく、夫婦ゴリラが部屋に入ってきた。

目の前の雌の両親だと見て間違いないだろう。だってゴリラだし。

「もう話にしても大丈夫なのか？」

「は、はあ……」

なんつか、ゴリラ一家と家族ぐるみのおつきあいというものをしていたのだろうか。

ゴリラ夫妻が馴れ馴れし過ぎやしないか？

ん？

ふと窓を見ると、ゴリラの顔がうつった。

あ、なるほど。

記憶喪失を利用して、雌もとい彼女もとい妹もといゴリラに担がれたのか。

脱ゴリは一生出来そうにありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5116d/>

天井は白かった

2010年11月28日03時41分発行